トピックス

・小さな勉強会 in 県南　ゲートキーパー養成研修
・ソーシャルワーカー応援企画
・ソーシャルワーカーデー in あきた 2024 活動報告
・わたしのおすすめスポット
・ペンリレー

小さな勉強会 in 県南
ゲートキーパー養成研修

2025年１月18日、秋田県社会福祉士会 青年部会「わっか」が企画する小さな勉強会が湯沢市にて開催されました。ゲートキーパー（※）として活動される産業カウンセラーの寺田誠氏を講師に招き、「傾聴するコミュニケーション」をテーマに講師と参加者たちとの意見交換が行われました。講師と参加者の感想を紹介します。

小さな勉強会の講師を務めて

１月18日、貴会の勉強会において「ゲートキーパー養成講座」を担当させていただきました。６年ほど前に、社会福祉士の有原佳奈子さんとご縁があり、彼女の気さくで真摯な態度にたちまち惚れ込み、図々しくも講座の開催をお願いしたところ、すぐにOKのお返事をいただきました。今回もその余韻が十分に残っていたので、あらためて講座の打診をし、快諾をいただいた次第でございます。有原さんにはこの場をお借りして感謝申し上げます。このようなちょっとした出会いや、関わりが気持ちを温かくし、次への行動につながるエネルギーとなります。まさにゲートキーパー活動においても、こういった人と人との関わりが必須だと思います。

ゲートキーパーというのは「生きる人を支援する命の門番」という意味で、一般的には「悩んで、生きる力を失いかけている人を救う」と受け取られています。しかし私たちカウンセラーという存在は、そのような態度以前に、まずは関わりの中で、ほんの少しでも気持ちが上向いてもらえたら、という態度で接することが一番だと思っています。

ゲートキーパーの役割として、アドバイスよりもまずはその人の話を聴く、その人を無条件に肯定する、という受けとめ方が求められています。しかし、言うは易く行うは難し。何故なら私たちにもそれなりの人生を送ってきた価値観があるからです。言い換えると、その人の人生を肯定するということは、あらためて自分の人生を見つめ直すことに他なりません。

日々、このような葛藤と戦いながら、目の前の人と相対していく必要があります。勉強会にご参加いただいた社会福祉士のみなさまも、まさにその葛藤と戦いながらお仕事をされている覚悟を感じました。勉強会ではまさに「同志」という感覚で、現実的かつ実際的な話題を共有することができたと思います。今後もみなさまの益々のご活躍を期待しております。この度は本当にありがとうございました。

講師の寺田誠氏と勉強会での様子

（※）自殺の危険性の高い人への早期対応を図るため自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を行う者。2007年に策定された旧自殺総合対策大綱で、ゲートキーパーの養成が目標設定された。

参加者の声

小金谷　達　志さん

今回、小さな勉強会には支援者としての学びを深めること、社会福祉士との交流を図るために参加しました。

ゲートキーパー・自殺予防について学んでみて、普段からの関わりの重要性を再認識し、クライエントとの関わり方についてはすぐに活かせると感じたところです。また、傾聴の仕方や伝え方を学べたことは大きな収穫でした。

産業カウンセラーの仕事や今まで関わりの少なかった職能団体の活動について知る事ができ、参加者とのグループワークは社会福祉士としての情報交換の場として有意義な時間となりました。

遠　藤　友　子さん

小さな勉強会には初めて参加させていただきました。今回、出身地である湯沢市での開催だったこともあり、社会福祉士の資格を得たことを期に、生まれ育った地域でなにか自分に出来ることはないか模索したいという思いがあり参加しました。

職場でも気持ちのコントロールがうまく出来ないご利用者様に関わることも多くあります。「傾聴するコミュニケーション」という副題にもあるように、その方の話を傾聴し少しでも気持ちを軽くするような言葉かけや対応が出来るようになりたいと感じました。また、身近で自殺に関係したケースがあり、先生のお話はすんなりとこころに入ってきて、今後の関わりに活かしていけると思いました。

今後も研修会などに参加し、他職種で働く会員の皆さんとの繋がりを広げていきたいと思います。

講師の寺田氏と参加者の様子

ソーシャルワーカー応援企画

社会福祉士会広報委員会では、ソーシャルワーカーが自身の活動を紹介し、ソーシャルワーカー同士がつながることを目的に会員の方からの寄稿を募集します。第１回目は、強度行動障害者の包括的プログラムを開発されている伊藤誠吾さんからの活動紹介になります。

強度行動障害者プログラムへの協力依頼

伊　藤　誠　吾

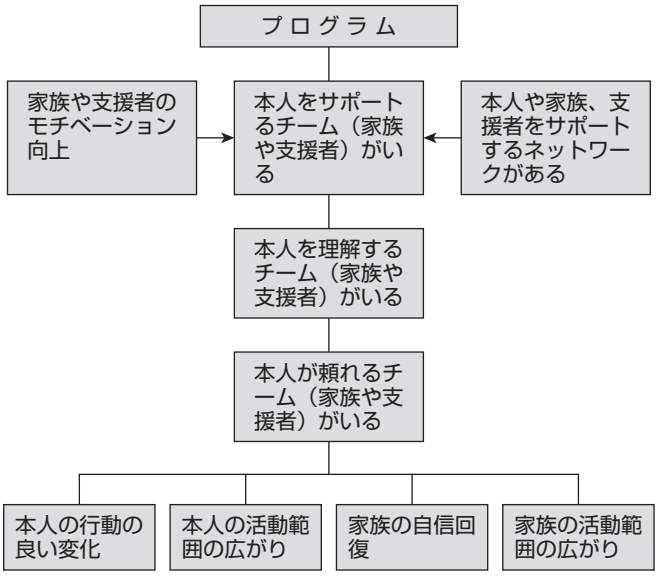
私は、自分や他人を傷つけるなどして生きづらさを抱えて生活している強度行動障害者と言われる人たちが、安心して暮らせる包括的なプログラムの開発・普及を実践現場で研究しています。

国の調べでは、障害福祉サービス等につながっていない強度行動障害者は１自治体あたり0.50人、障害福祉サービス等につながっているがニーズを満たされていない強度行動障害者は１自治体あたり2.98人と算出されています。数こそ少ないですが自傷他害が伴う強度行動障害者への支援は、当事者自身のみならず、それを支える家族や支援者の負担も相当なものであり、虐待や地域からの孤立の危険性もはらんでいます。そのためその支援には家族や支援者へのサポートも含めた包括的なものでなければいけません。国は、家族や支援者への支援も含めたガイドラインを示しているものの、有効性の検証は行われておらず、強度行動障害者に対する包括的なプログラムの検証が十分に進んでいない状況です。

私は、大島巌先生（東北福祉大学副学長）から指導して頂いた円環的対話型評価アプローチ法（CD-TEP法）をもとに成功事例の実践者へのインタビューや先行文献の調査を行い、暫定的な包括的プログラムを開発し、単一事例への試行を１年間にわたって行いました。プログラムのいくつかの要素が自傷他害の減少に効果があることや家族の自信回復、家族や本人の活動範囲の広がりに効果があることを量的、質的データから得ることができました。今後、このプログラムが他の事例にも適用できるように多くの事業者さんにプログラムを試行してもらい検証を重ね、プログラムの改善を行い、エビデンスレベルの高いプログラムにしたいと構想しています。

強度行動障害者の問題や包括的プログラムに興味・関心があり、プログラム開発に関わりたい、プログラムを試行してみたいといった意欲のある方は、下記までご連絡ください。

インパクト理論



社会福祉法人南秋福祉会 南秋つくし苑
相談支援専門員　伊藤誠吾
ito.s@n-fukushikai.net

ソーシャルワーカー応援企画　応募要項

社会福祉士会広報委員会では、ソーシャルワーカーの活動を応援する目的で会員の方からの寄稿を募集いたします。まだ、広く知られていない活動を紹介したい、社会課題解決のためにソーシャルワーカーが企画し、取り組んでいる活動の紹介をしたいなど、寄稿を希望される方は、秋田県社会福祉士会事務局（akitaken-csw@flute.ocn.ne.jp）まで氏名、所属、職名、会員番号、電話番号、投稿内容の概略を記入し、お送りください。広報委員会から後日、投稿依頼をさせて頂きます。

ソーシャルワーカーデー in あきた 2024

社会福祉士や精神保健福祉士などのソーシャルワーカーの活動を紹介するイベント「ソーシャルワーカーデー in あきた2024」が秋田市のにぎわい交流館AUで2024年７月27日に開催されました。当日の様子を報告していただきます。

活　動　報　告

秋田県社会福祉士会 青年部会「わっか」
成　田　和　幸

2021年からスタートしたソーシャルワーカーデー inあきたも今回で４回目となりました。今回のテーマは「災害支援とソーシャルワーク」とし、2020年の秋田豪雨を振り返りながらソーシャルワーカーが災害支援にどう関わっているのかを学ぶ機会としました。

今回初めて一般の方々を参加対象としました。秋田市内の町内会が参加呼びかけにご協力下さったことで、参加者39名中12名が一般の参加者となりました。

本イベントでは、基調講演に中通総合病院医療福祉相談室の塩谷行浩さんから、自身の職場における被災状況や災害派遣医療チーム（D-MAT）の活動について紹介していただきました。その後のシンポジウムでは秋田市横森五丁目町内会会長の武内仁さん、広面地域包括支援センター桜の園の中嶋朋子さん、秋田市社会福祉協議会地域支え合いセンター菊地俊彦さんより、秋田豪雨時の避難対応や被災後の対応について等の報告がありました。

武内仁さんが所属する横森五丁目町内会では役員会を定期的に開催し、町内における課題やイベントの企画を話し合い、いつでも連携できるよう日頃から準備しているとの話があり、これこそが自然災害の備えに繋がっているものだと強く感じました。また災害時は地域包括支援センターと町内会が連携し避難対応および避難後のサポートを行っていたこと、社会福祉協議会はサロン活動を通じて被災者の生活再建を支援していることを学ぶことが出来ました。

秋田県ではここ数年間で豪雨災害を何度も経験してきました。今後もいつ発生するか分からない自然災害に備え、個人としての備えだけでなく地域コミュニティ全体で備える事の重要性を感じることが出来たと思います。

最後になりますが、ソーシャルワーカーデーは今後も継続できるよう頑張っていきたいと思います。ぜひ多くの方々に参加していただき、ソーシャルワーカーデーを盛り上げていければと思います。また活動に興味がある方はぜひ私たちにお声がけください！

今後ともソーシャルワーカーデーをよろしくお願いします。

39名の方が参加されました

ソーシャルワーカーデーとは、社会福祉士や精神保健福祉士などのソーシャルワーカーの社会的認知を高めるために設けられた日です。2009年から「海の日」が「ソーシャルワーカーデー」と認定されました。ソーシャルワーカーデーの日には、ソーシャルワーカーの仕事や取り組みを紹介するイベントが全国各地で開催されます。

基調講演の様子

シンポジウムの様子　菊地さん　塩谷さん

シンポジウムの様子　中嶋さん　武内さん

わたしのおすすめスポット

会員の方たちから県内各地それぞれのおすすめスポットを紹介していただきました。
他にもおすすめのスポットがあれば教えてください。

大館市

☆菅　原　香　苗さん

私が皆さんにお勧めしたい場所は地元大館に点在する忠犬ハチ公スポットです。はじめに訪れてもらいたい場所は2019年に完成した大館駅前にある「秋田犬の里」です。大館生まれの忠犬ハチ公が飼い主を待ち続けた大正時代の渋谷駅をモデルとして建てられたもので、秋田犬の特徴を勉強しグッズも買えるハチ公好きにはたまらない場所となっています。また、秋田犬の里の敷地内には渋谷駅ハチ公前広場に置かれ、観光案内所として使われていた元東急5000系電車（通称「青ガエル」）が移設されており、ハチ公が主人を待ち続けた渋谷の雰囲気も感じられるとか。そして、ハチ公の虜になっていただいたあかつきには大館市大子内にある忠犬ハチ公の生地にも足を運んでいただきたいです。農道に突如として現れるハチ公トイレが目印でハチ公が生まれた時に見たであろう雄大な自然を感じることができることと思います。

にかほ市

☆武　田　貴　康さん

私のおすすめは、にかほ市金浦にございます焼き鳥屋さんです。ＪＲ金浦駅の近くにあり、桜のシーズンには店舗裏まで行列ができる持ち帰り専門の人気店でございます。店の雰囲気ですが、店の前に立つと炭火の香りに包まれます。そして、２ｍ程の長い焼台が出迎え、店主の女性が懸命に焼いているところを拝見できます。その焼台の上に、鶏肉達がのせられ、香ばしい香りがあたりにたちこめ、一瞬で胃袋を刺激してきます。このお店の焼き鳥ですが、肉と具材が大きく、とてもボリュームがあります。そして、ほとんどが１本120円と、リーズナブルでございます。私のおすすめは､「ぼんじり」と「砂肝」です。食べたら、ビールや白飯が欲しくなること間違いなしです。これから桜の時期を迎えます（３月に記事依頼)。にかほ市に行かれる機会がございましたら、勢至公園で鳥海山と桜を観ながら、焼き鳥を頬張ってみてはいかがでしょうか。

由利本荘市

☆木　内　麻衣子さん

私は、大仙市で勤務していますが、由利本荘市の出身です。私のおススメスポットは、実家がある地域にある「森子大物忌神社」という神社です。令和４年に上映された映画「THE FIRST SLAM DUNK」の中で､山王工業高校のエース「沢北栄治」が参拝していた神社に似ているということで、公開時多くの観光客の来訪がありました。「森子大物忌神社」は、鳥海山の修験者が信仰していた神社で、二ノ鳥居をくぐったあとには高い杉の木が参道の両側に広がっており、とても荘厳な雰囲気を感じることができます。私は小さい時からこの神社で地域の子たちと遊んだり、今でも毎年元旦に初詣をしたりしている位とてもなじみ深い神社です。そして『SLAM DUNK』は、物心ついた頃には家に漫画があり、これまで何度も読み返しては涙してきた私が一番大好きな漫画でもあります。そんな自分の身近にあった神社と漫画が縁あって注目されることとなり、とても嬉しく、そして誇らしく思っています。神社の注目ポイントは荘厳な雰囲気と、今年４月第二土曜日に行なわれる予定（３月に記事依頼）の「例大祭」です。米俵10俵分の神輿を担いで集落内の氏子が巡行し、その後神社の頂上まで一気に担いで登るのが見どころです。近くの商店ではオリジナルの御朱印やSLAM DUNKにちなんだグッズも購入することができます。もしお近くに住んでいらっしゃる方、ご興味がある方は足を運んでいただけますと幸いです！

ペンリレー

「チームプレーの大切さ」

由利本荘市居宅介護支援センター「さくら」 齋　藤　博　隆

同級生であり、仕事とパパさんの二刀流で日頃より大活躍されております、能代市社会福祉協議会訪問介護事業所の銭谷慎太郎さんよりバトンを受け取りました齋藤博隆と申します。

私は専門学校を卒業後、地元の介護老人保健施設へ介護職員として入職しました。その後職場の先輩からの勧めを受けて介護支援専門員の資格を取得し、現在は居宅介護支援事業所で働いております。

私が社会福祉士を取得しようと思ったきっかけが、現在仕事をしている分野以外のことを学びたいと思ったことでした。社会福祉士を取得してからは県士会主催の基礎研修を受講し、社会福祉士としての学びを深めると共に、研修で一緒になった他分野で活躍されているたくさんの仲間との出会いがあり、研修１日目には飲み会を通して、お互いの関係性を更に深めることが出来たという思い出もあります。

仕事が休みの時は、学生時代から続けている野球を今も続けています。チームは幅広い年齢層の方々が集まっており、何歳になっても野球をこよなく愛する面々です。これからもケガなく、楽しく続けられたらと思っています。

仕事と野球、この２つのことには共通点があると思います。それは、「周りにいる皆と力を合わせる」という事だと感じています。

利用者様の生活を支えていくためには家族やサービス事業所の方々の力が必要ですし、野球も９人のレギュラーメンバー、控えメンバー、応援してくれる方々の力があって試合に勝つ事が出来ると思っています。

私は色んな人から支えられて今があると思います。仕事や野球、基礎研修のメンバーなど、関わった方々に感謝し、日々の時間を大切にしながら生活していきたいと思います。

次は一緒に基礎研修を受講し、いつも優しく的確なアドバイスを頂いております、にかほ市役所市民福祉部にて福祉総合相談窓口の社会福祉士としてご活躍の吉泉真理子さんにバトンを渡します。吉泉さん、宜しくお願い致します。

「元気の源、豚骨ラーメン！!」

編集後記

ドラマ「不適切にもほどがある！」を見て、電車やバス、職場で自由にタバコを吸えていた時代が映されていました。私が福祉の仕事をしはじめた頃も施設や病院に喫煙所は当たり前のようにありました。今思えばびっくりすることですが、当時は当たり前でした。当たり前が変わってしまう時代の変化についていくのは大変なことです。会員のみなさまのおすすめスポットの記事を読みながら、なぜかそんなことを思いました。昭和生まれの私にとって、「不適切にもほどがある！」は共感できるおすすめドラマでした。

＜発　行＞ 一般社団法人　秋田県社会福祉士会　　＜発行責任者＞ 和　田　士　郎
＜事務局＞ 秋田市旭北栄町１－５（秋田県社会福祉会館内）
＜ＴＥＬ＞０１８－８９６－７８８１　　＜ＦＡＸ＞０１８－８９６－７８８２
＜ＭＡＩＬ＞ akitaken-csw@flute.ocn.ne.jp　　＜ＵＲＬ＞ http://www.akita-csw.org/
編　集　広報委員会